

2017年 9月号 おおきくなあれ

岐阜市芥見大般若1丁目84番地 河村病院 病児保育園クララ
HPアドレス <http://www.kawamura-medical.or.jp>



No. 210

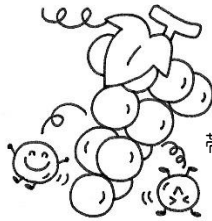


検温の仕方にご注意を!!

脇の下で測る体温計の、正しい測り方はすでにご存じだと思いますが、脇にはなんと、「低、中、高、」と体温差があることを御存知ですか?こんなに狭い範囲なのに驚きですね。中央にちゃんとあてているつもりでも、くぼみの真ん中にきちんとあてていないと正しく測れません。

体温計の先は「中心狙い」でお願いします。°O

私たちが気を付けます



今年の夏はいつもの夏とちょっと違ってましたね。急な雨や局地的雷雨など、天候不順が各地で見られ、かといって決して暑さが和らいだわけではなく、晴れた日は猛暑日や熱帯夜が続き、高知県では41℃を観測した日もありました。消防庁の発表によると、今年度熱中症で搬送された人の数は、5月から8月末の累計で4万9202人を超えたとのこと。小児の病気も、様々な種類の感染症が流行し、“今年は例年の〇〇倍の流行”などと、新聞等でたびたび報道されていました。病児保育の利用者も当然多くなり、定員いっぱいの日も…空きを求めて色々な病児保育施設をあたり、大変御苦労された方もみえました。さてこの秋はどうでしょう。たくさんのお子さんに会えるのは嬉しいのですが、私たちの仕事あまり“商売繁盛”してはいけませんよね。子どもたちには元気いっぱい秋の行事を楽しんでほしいです。夜の草むらはすでに秋の虫たちの大合唱。朝晩の冷え込みには十分注意してくださいね。そして、澄み切った青空のように、

どの子ものびのびとおおきくなあれ!



ほのほの日記

「もったいないオバケ」
& 「もったいないばあさん」のお話

食事を残したり食べ散らかしたりすると、「そんなことすると、もったいないオバケが出るよ」とか「もったいない婆さんに叱られるよ」などと子どもたちが言っているのを聞いたことありませんか!?クララでも大きい子が小さい子に向かって言っているのを時々耳にします。実際に「もったいない婆さん」という絵本はあるのですが、その絵本を見たことのない子でも、子どもたちは、食べ物を残したり捨てたりするようもったいないことをしてはいけないんだ…と、子どもたちなりに「もったいない」を感じ取っており、オバケや婆さんにたしなめられる恐怖!?を面白おかしく言葉に表して啓発しあっているのですよね。先日胃腸風邪で来所したH君(6歳)は、たまたまもったいないオバケの話聞いたことがなかったようで、クララの給食の時間にみんなが言っているのを聞いて初めて知ったのですが…その瞬間から、今日、自分が残したおかすが気になり始め「僕はお腹をこわしてるから無理に食べなくていいよって先生言ったよね。お母さんも言ってたよね。僕は残してもいいって最初から決まってたんだからもったいないことしてないよねえ」と必死の弁明(笑)…勿論大丈夫です!基本、病気の子にはもったいないオバケは出てこないに決まっています。それにしても、まじめなH君には、もったいないオバケの話は効果てき面だったようです。心配させてごめんね。クララの中でもったいないオバケが出るとしたら、それは、苦手なトマトをいつも残すH先生のところぐらいだから、みんなは安心して残していいんだよ(*^^)v



9月18日は敬老の日

病児保育で、おじいちゃんやおばあちゃんにお目にかかる時、それはお忙しいパパやママに代わって、お孫さんの送り迎えを引き受けて下さる時…こういう手助けってほんとにありがたいですよ。ただ、どこのジジもババもほんとにお若くてお元気で、お孫さんがそう呼ばなければ、ご両親と間違えることもしばしば(;;)。いつも若い子育て世代を支えて下さって本当にありがとうございます。たまにはたっぷり“敬老”してもらってくださいね。



仲岡ナースのお話 “リエゾン医療について”



聞きなれない言葉かと思いますが、『リエゾン』とはフランス語で「連携」「橋渡し」を意味します。リエゾン医療とは各分野の医師だけでなく、看護師や薬剤師、臨床心理士らが手を結び、ケースによっては東洋医学なども取り入れながら、患者様の生活の質をいかに向上させるかを旨とするものです。とりわけ、病気や後遺症に伴う心理的な辛さへの対応が課題になり、がん患者の治療やケアに、精神科医や精神科ナースが加わるなど、精神医療分野からの取り組みが非常に注目されています。「連携」や「橋渡し」という点では、病児保育も、医師、看護師、保育士、栄養士など様々な分野の専門職が連携して、病気に苦しむ子どもたちの体と心をささえようとしている点で、リエゾン医療に通ずるところがあるのではないのでしょうか。「病は気から」という言葉があるように、大人も子どもも病気の治療はつらいものですが、そんな時に精神面での支えがあればこそ

病気そのものを治す意欲や回復につながるというものです。医療に精神的ケアが重要視される今、私たちも、“病児保育版リエゾンチーム”となり、皆で連携して病児さんの心を支えていきたいと思っています。

